

第2次伊那市総合計画後期計画序論(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.3

【基本構想】

整理 番号	修正前 の頁	箇所	意見の概要	事務局（担当部局）の考え方
1			「序論」→「序章」としてはどうか。 論ずるのではなく、計画の基本となる内容の叙述のため。	語句の意味等を再度確認し、検討します。
2	P1	第1章 計画策定にあたって 第1節 計画策定の趣旨	地方分権の進展により、自治体の自由度と責任が拡大され → 「自治体」→「地方自治体」としてはどうか。	修正を検討します。
3	P1	第1章 計画策定にあたって 第1節 計画策定の趣旨	本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくためには、市民や地域、各種団体など多様な主体の参加 → 市民や地域、の次に「事業者」を加えたい。	「各種団体など」に事業者も含まれていると考えますので、そのままの記載とさせていただきたく存じます。
4	P2	第1章 計画策定にあたって 第2節 計画の構成及び期間	なぜ総合計画と土地利用計画を連動させたのか説明がほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の土地利用計画は、国土利用計画（全国計画）に基づいて策定された長野県国土利用計画を基本とし、伊那市総合計画の基本構想に即して本市の区域の土地利用に関し必要な事項を定めています。 ・土地利用計画の性格が、土地利用の方向性や理念などにあることから、近年では独立した土地利用計画ではなく、総合計画に包含する形で策定する市町村が多くなっています。本市においても、第2次総合計画から、総合計画との整合を図るため、基本構想における「土地利用構想」の内容を充実させる形で一体的に策定しています。

第2次伊那市総合計画後期計画序論(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.3

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	事務局(担当部局)の考え方
5	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	「第1節 自然と地理」→「第1節 位置と自然」としてはどうか。 地理という用語を使うには、あまりにも曖昧。 地理は自然～地域など様々な指標により地域性をあきらかにする学問だから。 故に、いきなり交通だけが扱われるのはいかにも不自然でアンバランス。	記載内容と節名を併せて検討します。
6	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	標高約600mの伊那盆地が開け → ~900mを補足し、「600m～900m」とされたい。	
7	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	天竜川が三峰川をはじめとする支流を合わせて南下し、天竜川に交わる形で扇状地や段丘崖が形成されており、 →交わるを削除し、以下のようにされたい。 天竜川の山麓には扇状地、河川沿いには河岸段丘が形成されており、広大なパノラマ景観が展開しています。	
8	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	国道153号をはじめ、国道152号、同361号及び県道が縦横に走り → 「県道、バイパスが走り」としてはどうか。	
9	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	地震や台風などの大きな災害が少なく自然環境に恵まれています。 → 「大きな災害が比較的少なく」としてはどうか。	
10	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	年間の平均気温が約12℃ → 約12℃ () とし、() 内に観測年を記載されたい。	
11	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	断層についても触れられたい。	
12	P4	第2章 本市の姿 第1節 自然と地理	首都圏及び中京圏から、ほぼ等距離に位置しています。 → 前の3行目に移し、位置として記述する。	

第2次伊那市総合計画後期計画序論(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.3

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	事務局(担当部局)の考え方
13	P5	第2章 本市の姿 第2節 沿革と現況	「旧宿場で商工業の盛んな伊那市」などの表現は妥当か。以降の文章の中に人口や産業などの要点も加えたい。	表現の妥当性について確認します。
14	P7	第2章 本市の姿 第3節 産業と文化	本市の産業は、農業・林業・工業・商業・建設業などがバランスよく発展してきました。 →なにを根拠にバランスがいいと言えるのか。	農業産出額、製造品出荷額、年間商品販売額等の実績を見ても、何かに特化していることも、大きく発展が遅れていると思われる産業も見当たらないため、バランスがよいと考えております。
15	P7	第2章 本市の姿 第3節 産業と文化	統計の表示は63.1億円(2020、農林水産省統計)くらいで充分ではないか。 また、計画の中の統計の出所の表示の統一が大切。	根拠を示すために統計の名称までを表示したいと考えております。 計画全編において統計の出所の表示は統一します。
16	P7	第2章 本市の姿 第3節 産業と文化	農業産出額、製造品出荷額、年間商品販売額の実績値が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた数値でよいのか(コロナ禍の期間内の数値でよいのか)。	当該数値と併せて、基本計画内に掲載しているまちづくり指標(KPI)の実績値につきましても、記載方法も含めて検討します。 当件の考え方について、委員の皆様のご意見がございましたらお聞かせください。
17	P7	第2章 本市の姿 第3節 産業と文化	文化財は指定文化財の件数等を示し、文化財は多岐にわたり豊富なことを記述したい。	件数を加えた文面とするか検討します。
18	P9	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流	第1節 本市を取り巻く時代の潮流 →「第1節 本市を取り巻く時代の潮流と課題」としてはどうか。	記載内容や語句の意味等を再確認し、修正について検討します。
19	P9	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流	1 持続可能な社会への変革 →「1 持続可能な社会への取組み」としてはどうか。	内容を再確認し、修正について検討します。
20	P10	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 4 健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現	生活習慣病・メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)は、最大の阻害要因となっています。 ⇒ここまで言い切ってよいのか。	文面につき、再検討します。

第2次伊那市総合計画後期計画序論(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.3

【基本構想】

整理番号	修正前の頁	箇所	意見の概要	事務局(担当部局)の考え方
21	P10	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 4 健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現	高血圧や糖尿病をはじめとする生活習慣病は、…認知症や寝たきりなどの要介護状態にもつながる要因となっており、 ⇒ここはつながるのか。因果関係はあるのか。	医学的に因果関係が認められることですので、そのままの記載とさせていただきます。存じます。
22	P11	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 6 地方創生の推進による地方分散型社会への転換	そうしたなか、 <u>地方自治体同士の競争に選ばれるためには</u> 、 ⇒表現が少し強い気がする。「自治体の特徴ある魅力をより発揮するためには、」としてはどうか。	該当部分の記載を「自治体の特徴ある魅力をより発揮するためには、」に修正し、表現を和らげます。
23	P11	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 7 DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展	7 DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展 → 過疎化、格差の拡大、空き家の増加等にも触れたい。「デジタル」について十分な理解が大切だが、ネーミングが先行している状況ではないか。	内容を再確認し、ご指摘いただいた項目を加えるべきか検討します。
24	P12	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 8 価値観やニーズの多様化	直近でLGBT法の施行もあったが、LGBTをどう位置付けるのか。	LGBT(LGBTQ)に関しては、重要な視点であると思われるため、記載を追加する方向で担当部局と調整します。
25	P12	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 9 ロシアのウクライナ侵攻による影響	9 ロシアのウクライナ侵攻による影響 → 「9 流動化する国際情勢」などとし、中国の台頭などにも触れたい。	内容を再確認し、ご指摘いただいた項目を加えるべきか検討します。
26	P13	第3章 計画策定の背景 第1節 本市を取り巻く時代の潮流 11 広域交通の充実による行動圏の拡大と地域公共交通の維持	「流域治水」という用語が唐突に出てくるので、流域治水について、説明を入れた流れにしてはどうか。	「流域治水」に関する説明を加え、合わせて文章の流れを考慮します。
27	P14	第3章 計画策定の背景 第2節 市民意識等から見える課題の整理 1 市民アンケート	市民アンケート → まとめは参考になるが、それぞれの設問の中でどのような点が課題として指摘されたか、もう少し具体的な記述をすると参考になるのでは。	原案に掲載しているまとめよりも内容の充実しているアンケート報告書(公表版)をお示しします。計画内は分量が限られるため、まとめの掲載とさせていただきます。存じます。

第2次伊那市総合計画後期計画序論(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.3

【基本構想】

整理 番号	修正前 の頁	箇所	意見の概要	事務局(担当部局)の考え方
28		全体	行政が策定する多岐にわたる諸計画を目にするが、策定過程はもとより既存の諸計画との整合・見直しをどうするか、かつ策定後の計画の実効性をどう高め、市民が共有するかといった点の工夫・取組みが求められる。	既存の諸計画との整合・見直しにつきましては、他計画を策定する際には、市の最上位計画である総合計画との整合を図ることとなっております。また、総合計画策定の際にも、他計画との整合について考慮しております。 策定後の計画の実効性につきましては、まちづくり指標等による計画の進捗管理を行うとともに、次期計画の策定時等に市民の皆様からのご意見・評価をしっかりと聞き取ることが重要であると考えます。
29		全体	計画策定に際し各委員の所属分野の前期に於ける計画の総括、それを踏まえた後期5カ年の課題を提出いただき、それを踏まえた内容を計画の中に反映したらどうか。	前期計画の総括や後期計画期間における課題を踏まえて計画原案をご審議いただければと存じます。
30		全体	先ごろ策定された県の総合計画とのすりあわせが大切	県計画を確認し、県計画と大きな乖離のないようにします。